

漢詩カルタについて

漢詩カルタとは

百人一首の和歌を漢詩にかえたのが「漢詩かるた」です。唐、宋時代の五言絶句と七言絶句、合わせて60首の漢詩を使います。※実際のゲームでは60首のうち30首が読まれます。

● ルール

①6～8人を1組として、数組に分かれて競技を行います。

②「百人一首」のかるた取りと同様で、上句から下句までを読み上げます。取札には下句（絶句の後半の2行）の白文（漢字のみが書かれたもの）、書き下し文が書かれています。読み上げは中国語（白文）、日本語（書き下し文）の順で15首、その後で日本語（書き下し文）、中国語（白文）の順で15首読みます。

③読み手が詩を読み始めたら、机の上に並べられたかるたの中からその詩の取札（下句）をさがして取ります。全てを読み終わらなくても、下句がわかったところで、取札を取ることができます。ただし、読み手は日本語と中国語で最後まで読みます。ゲーム終了時の取札獲得枚数を競います。

（認定NPO法人 東京都日本中国友好協会より 一部修正加筆）

次のページから始まる漢詩をカルタで使用します。60首の詩のうち30首が読まれます。赤枠に囲まれた部分が取札に書かれている下句です。

zhú lǐ guǎn wáng wéi
竹里馆 王维

dú zuò yōu huáng lǐ
独坐幽篁里

tán qín fù cháng xiào
弹琴复长啸

shēn lín rén bù zhī
深林人不知

míng yuè lái xiāng zhào
明月来相照

ひと ゆうこう うち ざ
ひとり 幽篁の裏に 坐し

だんきん ま ちようしょう
弹琴 復た 長 嘯

しんりん ひとし
深林 人 知らず

めいげつ き あいて
明月 来たりて 相照らす

yuàn qíng lǐbái
怨情 李白

měi rén juǎn zhū lián
美人卷珠帘

shēn zuò pín é méi
深坐颦蛾眉

dàn jiàn lèi hén shī
但见泪痕湿

bù zhī xīn hèn shuí
不知心恨谁

びじんしゆれん ま
美人 珠簾を 捲き

ふか ざ が び ひそ
深く 坐して 蛾眉を 顰む

ただ みる 涙痕の 湿うを

知らず 心に 誰をか 恨む

jìng yè sī lǐ bái
静夜思 李白

chuángqián míng yuè guāng
床前明月光

yí shì dì shàng shuāng
疑是地上霜

jǔ tóu wàng míng yuè
举头望明月

dī tóu sī gù xiāng
低头思故乡

しょうぜんげつこうあき
床前月光明らかなり

うたが これ ちじょう しも
疑うらくは是れ地上の霜かと

こうべ あ めいげつ のぞ
頭を挙げて明月を望み

こうべ た こきょう おも
頭を低れて故郷を思う

dú zuò jìng tíng shān lǐ bái
独坐敬亭山 李白

zhòng niǎo gāo fēi jìn
众鸟高飞尽

gū yún dú qù xián
孤云独去闲

xiāng kàn liǎng bú yàn
相看两不厌

zhǐ yǒu jìng tíng shān
只有敬亭山

しゅうちようたか と つ
衆鳥高く飛んで尽き

こうんひと さ のど
孤雲独り去って閑かなり

あいみ ふた いと
相看着両つながら厭わず

ただ けいていざん あ
只だ敬亭山有るのみ

jiāng xuě liǔ zōng yuán
江 雪 柳 宗 元

qiān shān niǎo fēi jué
千 山 鸟 飞 绝

wàn jìng rén zōng miè
万 径 人 踪 灭

gū zhōu suō lì wēng
孤 舟 蓑 笠 翁

dú diào hán jiāng xuě
独 钓 寒 江 雪

せんざんとりと たえ
千山鳥飛ぶこと絶え

ばんけいじんしょうめつ
万径人蹤滅す

こしゅうさりゅう おう
孤舟蓑笠の翁

ひと つ かんこう ゆき
独り釣る寒江の雪に

dēng yōu zhōu tái chénziáng
登 幽 州 台 陈子昂

qián bú jiàn gǔ rén
前 不 见 古 人

hòu bú jiàn lái zhě
后 不 见 来 者

sī tiān dì yōu yōu
思 天 地 悠 悠

dú chuàng rán tì xià
独 怆 然 涕 下

まえ こじん み
前に古人を見ず

のち らいしゃ み
後に来者を見ず

てんち ゆうゆう おも
天地の悠々たるを思うて

ひと そうぜん なんだくだ
独り愴然として涕下る

jiāng nán chūn dù mù
江 南 春 杜 牧

qiān lǐ yīng tí lǜ yǐng hóng
千 里 莺 啼 绿 映 红

shuǐ cūnshān guō jiǔ qí fēng
水 村 山 郭 酒 旗 风

nán cháo sì bǎi bā shí sì
南 朝 四 百 八 十 寺

duō shǎo lóu tái yān yǔ zhōng
多 少 楼 台 烟 雨 中

せんりりうぐいすな みどりくれない えい
千里鶯啼きて緑紅に映ず

すいそんさんかくしゅき かぜ
水村山郭酒旗の風

なんちようよんひゃくはっしんじ
南朝四百八十寺

たしょう ろうたいえんう うち
多少の楼台煙雨の中

kè zhōng xíng lǐ bái
客 中 行 李 白

lán líng měi jiǔ yù jīn xiāng
兰 陵 美 酒 郁 金 香

yù wǎn chéng lái hǔ pò guāng
玉 碗 盛 来 琥 珀 光

dàn shǐ zhǔ rén néng zuì kè
但 使 主 人 能 醉 客

bù zhī hé chù shì tā xiāng
不 知 何 处 是 他 乡

らんりゅう ひしゅうこんこう
蘭陵の美酒鬱金香

ぎよくわんも きた こはく ひかり
玉碗盛り来る琥珀の光

た しゅじん よ かく よ
但だ主人をして能く客を酔わしめば

し いず ところ こ たきょう
知らず何れの処か是れ他郷なるを

dēngguànduèlóu wángzhīhuàn
登 鹤 鹑 楼 王 之 涣

báirì yī shān jìn
白 日 依 山 尽

huáng hé rù hǎi liú
黄 河 入 海 流

yù qióng qiān lǐ mù
欲 穷 千 里 目

gèng shàng yì céng lóu
更 上 一 层 楼

はくじつやま よ つき
白日山に依りてつき

こうがうみ い なが
黄河海に入りて流る

せんり め きわ ほつ
千里の目を窮めんと欲して

さら のぼ いっそう ろう
更に登る一層の楼

huánghèlóusòngmènghàoránzhīguǎnglíng
黄 鹤 楼 送 孟 浩 然 之 广 陵

libái
李 白

gù rén xī cí huáng hè lóu
故 人 西 辞 黄 鹤 楼

yān huā sān yuè xià yáng zhōu
烟 花 三 月 下 扬 州

gū fān yuǎn yǐng bì kōng jìn
孤 帆 远 影 碧 空 尽

wéi jiàn cháng jiāng tiān jì liú
唯 见 长 江 天 际 流

こじんにし こうかくろう じ
故人西のかた黄鹤楼を辞し

えん かさんがつようしゅう くだ
烟花三月揚州に下る

こはん えんえいへきくう つ
孤帆の遠影碧空に尽き

ただ み ちょうこう てんさい なが
唯だ見る長江の天際に流るるを

shān zhōng dá sú rén lǐ bái
山 中 答 俗 人 李 白

wèn yú hé yì qī bì shān
问 余 何 意 栖 碧 山

xiào ér bù dá xīn zì xián
笑 而 不 答 心 自 闲

táo huā liú shuǐ yǎo rán qù
桃 花 流 水 窅 然 去

bié yǒu tiān dì fēi rén jiān
别 有 天 地 非 人 间

われ と なん こころ へきざん す
余に問う何の意にてか碧山に栖むと

わろ こた こころ おの しず
笑うて答えず心は自ずと閑かなり

とう かりゅうすいようぜん さ
桃花流水窅然として去り

べつ てんち ひと よ あらざ あ
別に天地の人の間には非るもの有り

sòng yuán èr shǐ ān xī wángwéi
送 元 二 使 安 西 王 维

wèi chéng zhāo yǔ yì qīng chén
渭 城 朝 雨 浥 轻 尘

kè shè qīng qīng liǔ sè xīn
客 舍 青 青 柳 色 新

quàn jūn gèng jìn yì bēi jiǔ
劝 君 更 尽 一 杯 酒

xī chū yáng guān wú gù rén
西 出 阳 关 无 故 人

いじょう ちょうう けいじん うるお
渭城の朝雨は軽塵を浥し

かくしやせいせいりゅうしよくあら
客舍青青柳色新たなり

きみ すす さら つ いっばい さけ
君に劝む更に尽くせ一杯の酒

にし ようかん いづ こじん な
西のかた陽関を出れば故人無からん

é méi shān yuè gē lǐ bái
峨眉山月歌李白

é méi shān yuè bàn lún qiū
峨眉山月半轮秋

yǐng rù píng qiāng jiāng shuǐ liú
影入平羌江水流

yè fā qīng xī xiàng sān xiá
夜发清溪向三峡

sī jūn bú jiàn xià yú zhōu
思君不见下渝州

が びさんげつはんりん あき
峨眉山月半輪の秋

かけ へいぎょうこうすい い なが
影は平羌江水に入りて流る

よるせいけい はつ さんきょう む
夜清溪を発して三峡に向かう

きみ おも み ゆしゅう くだ
君を思えども見えず渝州に下る

fù chóu dù fǔ
复愁杜甫

wàn guó shàng róng mǎ
万国尚戎马

gù yuán jīn ruò hé
故园今若何

xī guī xiāng shí shǎo
昔归相识少

zǎo yǐ zhàn chǎng duō
早已战场多

ばんこく なお じゅう ば
万国尚お戎馬

こ えんいまい かん
故園今若何

むかしがえ そうしきま
昔帰りしとき相識少れに

はや すで せんじょうおお
早く己に戦場多かりき

qiū pǔ gē lǐ bái
秋浦歌李白

bái fà sān qiān zhàng
白发三千丈

yuán chóu sì gè cháng
缘愁似个长

bù zhī míng jìng lǐ
不知明镜里

hé chù dé qiū shuāng
何处得秋霜

はくはつさんせんじょう
白髪三千条

うれ よ かく ごと なが
愁いに縁りて箇の似く長し

し めいきょう うち
知らず明鏡の裏

いず ところ しゅうそう え
何れの処よりか秋霜を得たる

jué jù dù fǔ
絶句杜甫

jiāng bì niǎo yú bái
江碧鸟逾白

shān qīng huā yù rán
山青花欲燃

jīn chūn kàn yòu guò
今春看又过

hé rì shì guī nián
何日是归年

こう みどり とりいよ しろ
江は碧にして鳥逾いよ白く

やま あお はなも ほっ
山は青くして花然えんと欲す

こんしゅん ま ま す
今春看のあたりに又た過ぐ

いず ひ こ きねん
何れの日か是れ帰年

chūn xiǎo mèng hào rán
春 晓 孟 浩 然

chūn mián bù jué xiǎo
春 眠 不 觉 晓

chù chù wén tíniǎo
处 处 闻 啼 鸟

yè lái fēng yǔ shēng
夜 来 风 雨 声

huā luò zhī duō shǎo
花 落 知 多 少

しゅんみんあかつき おぼ
春 眠 晓 を 覚 えず

しよしよていちよう き
処々啼鳥を聞く

やらいふうう こえ
夜来風雨の聲

はな お ち し たしよ
花 落 つ る こ と 知 る 多 少

zhōngshānjíshì wáng ān shí
钟 山 即 事 王 安 石

jiàn shuǐ wú shēng rào zhú liú
涧 水 无 声 绕 竹 流

zhú xī huā cǎonòng chūn róu
竹 西 花 草 弄 春 柔

máo yán xiāng duì zuò zhōng rì
茅 檐 相 对 坐 终 日

yì niǎo bù tí shān gèng yōu
一 鸟 不 啼 山 更 幽

かんすいこえ な たけ めぐ なが
涧水声無く竹を遶って流る

ちくせい か そうしゅんじゅう ろう
竹西の花草春柔を弄す

ぼうえんあいたい ざ しゅうじつ
茅檐相對して坐すること終日

いっちょう な やまさら ゆう
一鳥啼かず山更に幽なり

chūsàicóngjūnxíng wángchānglíng
出 塞 从 军 行 王 昌 龄

qín shí míng yuè hàn shí guān
秦 时 明 月 汉 时 关

wàn lǐ cháng zhēng rén wèihuán
万 里 长 征 人 未 还

dàn shǐ lóng chéngfēijiàngzài
但 使 龙 城 飞 将 在

bú jiào hú mǎ dù yīn shān
不 教 胡 马 度 阴 山

しんじ めいげつかんじ かん
秦時の明月漢時の関

ばんり ちようせい ひといま かえ
万里长征して人未だ還らず

た りゅうじょう ひしやう あ
但だ龍城の飛将をして在らしめば

こば して いんざん わた
胡馬をして陰山を度らしめず

chūn xíng jì xìng lǐ huá
春 行 寄 兴 李 华

yí yáng chéng xiàcǎo qī qī
宜 阳 城 下 草 萋 萋

jiàn shuǐdōngliú fùxiàngxī
涧 水 东 流 复 向 西

fāng shù wú rén huā zì luò
芳 树 无 人 花 自 落

chūnshānyí lù niǎokōng tí
春 山 一 路 鸟 空 啼

ぎようじようか くさせいせい
宜陽城下 草萋萋たり

かんすいとうりゅう ま にし むこ
涧水東流して復た西に向う

ほうじゅひと な はなのすか お
芳樹人無く花自ら落ち

しゅんざんいちろ とりむな な
春山一路鳥空しく啼く

chú yè zuò gāo shì
除夜作 高适

lǚ guǎn hán dēng dú bù mián
旅馆寒灯独不眠

kè xīn hé shì zhuǎn qī rán
客心何事转凄然

gù xiāng jīn yè sī qiān lǐ
故乡今夜思千里

shuāng bìn míng zhāo yòu yì nián
霜鬓明朝又一年

りょかん かんとうひと ねむ
旅館の寒灯独り眠らず
かくしんなにごと うた せいぜん
客心何事ぞ 転た凄然

こきょうこん やせんり おも
故郷今夜千里を思う
そうびんみょうちよう いちねん
霜鬢明朝また一年

sì shí gē gù kǎi zhī
四时歌 顾恺之

chūn shuǐ mǎn sì zé
春水满四泽

xià yún duō qí fēng
夏云多奇峰

qiū yuè yáng míng huī
秋月扬明辉

dōng líng xiù gū sōng
冬岭秀孤松

しゅんすい したく み
春水四沢に満ち
かうん きほうおほ
夏雲奇峰多し

しゅうげつめい き あ
秋月明輝を揚げ
とうれい こしょうひい
冬嶺弧松秀ず

liáng zhōu cí wáng hàn
凉州词 王翰

pú táo měi jiǔ yè guāng bēi
葡萄美酒夜光杯

yù yǐn pí pá mǎ shàng cuī
欲饮琵琶马上催

zuì wò shāchǎng jūn mò xiào
醉卧沙场君莫笑

gǔ lái zhēngzhàn jǐ rén huí
古来征战几人回

ぶどう びしゅや こう はい
葡萄の美酒夜光の杯
の ほっ びわばじょう もよお
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

よ さじょう ふ きみわら
酔いて沙上に取すとも君笑うことなかれ
こらいせいせん いくにん かえ
古来征战 幾人か回る

zǎo fā bái dì chéng lǐ bái
早发白帝城 李白

zhāocíbáidìcǎiyúnjiān
朝辞白帝彩云间

qiānlǐjiānglíngyí rì huán
千里江陵一日还

liǎngànyuánsēngtībúzhù
两岸猿声啼不住

qīngzhōuyìguòwànchóngshān
轻舟已过万重山

あした し はくていさいうん かん
朝に辞す白帝彩雲の間
せんり こうりょういちじつ かえ
千里の江陵一日にして還る

りょうがん えんせい な や
兩岸の猿声啼いて住まざるに
けいしゅうすで す ばんちよう やま
輕舟己に過ぐ万重の山

féng rù jīng shǐ cén chēn
逢入京使岑参

gù yuán dōng wàng lù màn màn
故园东望路漫漫

shuāng xiù lóng zhōng lèi bù gān
双袖龙钟泪不干

mǎ shàng xiāng féng wú zhǐ bǐ
马上相逢无纸笔

píng jūn chuán yǔ bào píng ān
凭君传语报平安

こうえんとうぼう みちまんまん
故園東望すれば路漫漫たり

そうしゅうりょうしょう なみだかわ
双袖竜鐘として涙乾かず

ばじょうあいお しひつな
馬上相逢うて紙筆無し

きみよ でんご へいあん ほう
君に憑って伝語し平安を報ぜん

jiǔyuèjiǔrìyì shāndōngxiōngdì
九月九日忆山东兄弟

wángwéi
王维

dú zài yì xiāng wéi yì kè
独在异乡为异客

měi féng jiā jié bèi sī qīn
每逢佳节倍思亲

yáo zhīxiōng dì dēng gāo chù
遥知兄弟登高处

biàn chā zhū yú shǎo yì rén
遍插茱萸少一人

ひと いきょう あ いかく な
独り異郷に在りて異客と為り

かせつ あ ごと ます しん おも
佳節に逢う毎に倍ます親を思う

はる し けいていたか のぼ ところ
遥かに知る兄弟高きに登る処

あま しゅゆ き いちにん か
遍ねく茱萸を挿して一人を少かんことを

fúrónglósòngxīnjiàn
芙蓉楼送辛渐

wángchānglíng
王昌龄

hán yǔ lián jiāng yè rù wú
寒雨连江夜入吴

píngmíngsòng kè chǔshān gū
平明送客楚山孤

luòyángqīn yǒu rú xiāngwèn
洛阳亲友如相问

yí piàn bīng xīn zài yù hú
一片冰心在玉壶

かんうこう つら よるご い
寒雨江に連なりて夜呉に入る

へいめいかく おく そざんこ
平明客を送れば楚山孤なり

らくよう しんゆうも あいと
洛陽の親友如し相問わば

いっぺん ひょうしんぎやくこ あ
一片の氷心玉壺に在り

qiū fēng yǐn liú yǔ xī
秋风引刘禹锡

hé chù qiū fēng zhì
何处秋风至

xiāo xiāo sòng yàn qún
萧萧送雁群

zhāo lái rù tíng shù
朝来入庭树

gū kè zuì xiān wén
孤客最先闻

いず ところ しゅうふういた
何れの処よりか秋風至る

しょうしょう がんぐん おく
蕭蕭として雁群を送る

ちようらいていじゅ い
朝来庭樹に入り

こ かくもつと さき き
孤客最も先に聞く

ǒu chéng zhū xī
偶 成 朱 熹

shào nián yì lǎo xué nán chéng
少 年 易 老 学 难 成

yí cùn guāng yīn bù kě qīng
一 寸 光 阴 不 可 轻

wèi jué chí táng chūn cǎo mèng
未 觉 池 塘 春 草 梦

jiē qián wú yè yǐ qiū shēng
阶 前 梧 叶 已 秋 声

しょうねん お やす がく な がた
少 年 老 易 学 成 難 易

いっすん こういんかる
一 寸 の 光 陰 軽 ん ず べ か ら ず

いま さ ち とうしゅんそう ゆめ
未 だ 覚 め ず 池 塘 春 草 の 夢

かいぜん ごようすで しゅうせい
階 前 の 梧 葉 已 に 秋 声

fēng qiáo yè bó zhāng jì
枫 桥 夜 泊 张 继

yuè luò wū tí shuāng mǎn tiān
月 落 乌 啼 霜 满 天

jiāng fēng yú huǒ duì chóu mián
江 枫 渔 火 对 愁 眠

gū sū chéng wài hán shān sì
姑 苏 城 外 寒 山 寺

yè bàn zhōng shēng dào kè chuán
夜 半 钟 声 到 客 船

つき お からす な しもてん み
月 落 ち 烏 啼 きて 霜 天 に 満 つ

こうふうぎよ か しゅうみん たい
江 枫 渔 火 愁 眠 に 对 す

こ そ じょうがい かんざん じ
姑 蘇 城 外 の 寒 山 寺

や はん しゅうせいかくせん いた
夜 半 の 鐘 声 客 船 に 至 る

chūn yè sū shì
春 夜 苏 轼

chūn xiāo yí kè zhí qiān jīn
春 宵 一 刻 值 千 金

huā yǒu qīng xiāng yuè yǒu yīn
花 有 清 香 月 有 阴

gē guǎn lóu tái shēng xì xì
歌 管 楼 台 声 细 细

qiū qiān yuàn luò yè chén chén
秋 千 院 落 夜 沉 沉

しゅんしょういつこくあたいせんきん
春 宵 一 刻 值 千 金

はな せいこう あ つき かげ あ
花 に 清 香 有 り 月 に 陰 有 り

か かんろうだい こえさいさい
歌 管 楼 台 声 细 细

しゅうせんいんらく よるちんちん
鞦 韆 院 落 夜 沈 沈

xīn jià niáng wáng jiàn
新 嫁 娘 王 建

sān rì rù chú xià
三 日 入 厨 下

xǐ shǒu zuò gēng tāng
洗 手 作 羹 汤

wèi ān gū shí xìng
未 谙 姑 食 性

xiān qiān xiǎo gū cháng
先 遣 小 姑 尝

さんじつちゅう か い
三 日 厨 下 に 入 り

て あら こうとう つく
手 を 洗 っ て 羹 湯 を 作 る

いま こ しやくせい そち
未 だ 姑 の 食 性 を 諳 ん ぜ ず

まず しょうこ を し て 嘗 め し む
ま ず 小 姑 を し て 嘗 め し む

guān shān yuè chǔ guāng yì
关 山 月 储 光 义

yí yàn guò lián yíng
一 雁 过 连 营

fán shuāng fù gǔ chéng
繁 霜 覆 古 城

hú jiǎ zài hé chù
胡 笳 在 何 处

bàn yè qǐ biān shēng
半 夜 起 边 声

いちがんれんえい す
一雁連營を過ぎ

はんそう こじょう おお
繁霜古城を覆う

こ か いく どの の へい にか 在る

はん や へんせい おこ
半夜 辺声を起す

sòng zhū dà rù qín mèng hào rán
送 朱 大 入 秦 孟 浩 然

yóu rén wǔ líng qù
游 人 五 陵 去

bǎo jiàn zhí qiān jīn
宝 剑 值 千 金

fēn shǒu tuō xiāng zèng
分 手 脱 相 赠

píng shēng yí piàn xīn
平 生 一 片 心

ゆうじん ごりょう き
遊人五陵に去る

ほうけん あたいせんきん
宝剑值千金

て わ ぶん かつ と き だつ して あいおく
手を分かつとき脱して相贈る

へいせい いっぺん こころ
平生一片の心

sòng dù shí sì zhī jiāng nán
送 杜 十 四 之 江 南

mèng hào rán
孟 浩 然

jīng wú xiāng jiē shuǐ wéi xiāng
荆 吴 相 接 水 为 乡

jūn qù chūn jiāng zhèng miǎo máng
君 去 春 江 正 淼 茫

rì mù zhēng fān hé chù bó
日 暮 征 帆 何 处 泊

tiān yá yí wàng duàn rén cháng
天 涯 一 望 断 人 肠

けい ご あいせつ みず きょう な
荆吴相接して水を郷と為すも

きみ き しゅんこうまさ びょうぼう
君去って春江正に淼茫たり

にちぼ こしゅういす とくろ やど
日暮孤舟何れの処にか泊る

てんが いちぼう ひと はらわた た
天涯一望 人の腸を断つ

zá shī wáng wéi
杂 诗 王 维

yǐ jiàn hán méi fā
已 见 寒 梅 发

fù wén tí niǎo shēng
复 闻 啼 鸟 声

xīn xīn shì chūn cǎo
心 心 视 春 草

wèi xiàng yù jiē shēng
畏 向 玉 阶 生

すで かんばい ひら み
已に寒梅の発くを見

また ていちょう こえ き
復た啼鳥の声を聞く

しんしん しゅんそう み
心心に春草を視ては

ぎょうかい むか しょう おそ
玉階に向って生ずるを畏る

yuán rì wáng ān shí
元 日 王 安 石

bào zhú shēng zhōng yí suì chú
爆 竹 声 中 一 岁 除

chūn fēng sòng nuǎn rù tú sū
春 风 送 暖 入 屠 苏

qiān mén wàn hù tóng tóng rì
千 门 万 户 瞳 瞳 日

zǒng bǎ xīn táo huàn jiù fú
总 把 新 桃 换 旧 符

ばくちく せいちゅういっさいつ
爆竹の 声 中 一 歳 除 け
しゅんぷうだん おく と そ い
春 風 暖 を 送 り て 屠 蘇 に 入 る

せんもんばん こととう ひ
千 門 万 戸 瞳 瞳 た る 日
すべてしんとう と きゅうふ か
総 て 新 桃 を 把 り て 旧 符 に 換 う

shān xíng dù mù
山 行 杜 牧

yuǎnshàng hánshān shí jìng xiá
远 上 寒 山 石 径 斜

bái yún shēng chù yǒu rén jiā
白 云 生 处 有 人 家

tíng chē zuò ài fēng lín wǎn
停 车 坐 爱 枫 林 晚

shuāng yè hóng yú èr yuè huā
霜 叶 红 于 二 月 花

とお かんざん のぼ せっけいなな
遠 く 寒 山 に 上 れ ば 石 径 斜 め な り
はくうんしょう とこじん か あ
白 雲 生 ず る 処 人 家 有 り

くるま とど そぞろ あい ふうりん くれ
車 を 停 め て 坐 に 愛 す 楓 林 の 晚
そうよう に がつ はな くれな
霜 葉 は 二 月 の 花 よ り も 紅 な り

quàn jiǔ yú wǔ líng
劝 酒 于 武 陵

quàn jūn jīn qū zhī
劝 君 金 屈 卮

mǎn zhuó bù xū cí
满 酌 不 须 辞

huā fā duō fēng yǔ
花 发 多 风 雨

rén shēng zú bié lí
人 生 足 别 离

きみ すす きんくつし
君 に 劝 む 金 屈 卮
まんしゃくじ もち
满 酌 辞 す る を 須 い ず

はなひら ふうう おお
花 発 きて 風 雨 多 し
じんせいべつり た
人 生 别 離 足 る

lù chái wáng wéi
鹿 柴 王 维

kōng shān bú jiàn rén
空 山 不 见 人

dàn wén rén yǔ xiǎng
但 闻 人 语 响

fǎn jǐng rù shēn lín
返 景 入 深 林

fù zhào qīng tái shàng
复 照 青 苔 上

くうざん ひと み
空 山 人 を 見 ず
た じんご ひび き
但 だ 人 語 の 響 き を 聞 く

へんけいしんりん い
返 景 深 林 に 入 り
ま せいたい うえ て
復 た 青 苔 の 上 を 照 ら す

shānzhōngyǔyōurénduìzhuó libái
山 中 与 幽 人 对 酌 李 白

liǎng rén duì zhuó shān huā kāi
两 人 对 酌 山 花 开

yì bēi yì bēi yòu fù yì bēi
一 杯 一 杯 又 复 一 杯

wǒ zuì yù mián jūn qīng qiě qù
我 醉 欲 眠 君 卿 且 去

míng zhāo yǒu yì bào qín lái
明 朝 有 意 抱 琴 来

りょうじんたいしゃく さんかひら
両 人 对 酌 す れば 山 花 開 く

いっばいいいっばい いっばい
一 杯 一 杯 又 一 杯

われよ ねむ ほっ きみ しば さ
我 醉 いて 眠 らんと 欲 す 君 よ 且 らく 去 れ

みょうちようい あ さん だ き
明 朝 意 有 らば 琴 を 抱 いて 来 た れ

zhàojìngjiànbáifà zhāngjiǔlíng
照 镜 见 白 发 张 九 龄

sù xī qīng yún zhì
宿 昔 青 云 志

cuō tuó bái fà nián
蹉 跎 白 发 年

shuí zhī míng jìng lǐ
谁 知 明 镜 里

xíng yǐng zì xiāng lián
形 影 自 相 怜

しゆくせきせいうん こころざし
宿 昔 青 雲 の 志

さ た はくはつ とし
蹉 跎 たり 白 髪 の 年

たれ し めいきよう うち
誰 か 知 らん 明 鏡 の 裏

けいえいおのずか あいあわ
形 影 自 ら 相 隣 れ まん と は

dōng lán lí huā sū shì
东 栏 梨 花 苏 轼

lí huā dàn bái liǔ shēn qīng
梨 花 淡 白 柳 深 青

liǔ xù fēi shí huā mǎn chéng
柳 絮 飞 时 花 满 城

chóu chàng dōng lán yì zhū xuě
惆 怅 东 栏 一 株 雪

rén shēng kàn dé jǐ qīng míng
人 生 看 得 几 清 明

り か たんぱくやなぎ しんせい
梨 花 は 淡 白 柳 は 深 青

りゅうじょうと はなしろ みつ
柳 絮 飛 ぶ と 時 花 城 に 満 つ

ちゅうちよう とうらんいっしゅ ゆき
惆 怅 す 東 欄 一 株 の 雪

じんせい み う いくせいめい
人 生 看 得 る は 幾 清 明 ぞ

jīng shī dé jiā shū yuán kǎi
京 师 得 家 书 袁 凯

jiāng shuǐ sān qiān lǐ
江 水 三 千 里

jiā shū shí wǔ háng
家 书 十 五 行

háng háng wú bié yǔ
行 行 无 别 语

zhī dào zǎo guī xiāng
只 道 早 归 乡

こうすいさんぜんり
江 水 三 千 里

かしょじゅうごぎょう
家 書 十 五 行

ぎょうぎょうべつごな
行 行 别 語 無 く

ただい はや きょう かえ
只 道 う 早 く 郷 に 帰 れ と

nǐ sòng bié wáng yáo xiāng
拟送别 王瑶湘

gū zhōu mù guī qù
孤舟暮归去

bié lù jiāng nán shù
别路江南树

yān wài yǒu zhōng shēng
烟外有钟声

gù rén zài hé chù
故人在何处

こしゅうく かえ さ
孤舟暮れに帰り去る

べつろ こうなん き
别路江南の樹

えんがいしょうせい あ
煙外鐘声有り

こじんいずこ あ
故人何処に在る

dù jiāng wén mò
渡江 文墨

qīng shān rú gù rén
青山如故人

jiāng shuǐ sì měi jiǔ
江水似美酒

jīn rì chóng xiāng féng
今日重相逢

bǎ jiǔ duì liáng yǒu
把酒对良友

せいざん こじん ごと
青山故人の如く

こうすいびしゅ に
江水美酒に似たり

きょうかさ あいあ
今日重ねて相逢う

さけ と りょうゆう たい
酒を把って良友に対す

péizúshūxíngbùshìlángwè jízhōngshūjiǎshèrén
陪族叔刑部侍郎晔及中书贾舍人

zhì yóu dòng tíng líbái
至游洞庭 李白

dòng tíng xī wàng chǔ jiāng fēn
洞庭西望楚江分

shuǐ jìn nán tiān bú jiàn yún
水尽南天不见云

rì luò cháng shā qiū sè yuǎn
日落长沙秋色远

bù zhī hé chù diào xiāng jūn
不知何处吊湘君

どうていにし のぞ そこうわ
洞庭西に望めば楚江分かる

みずつ なんてん くも み
水尽きて南天に雲を見ず

ひ お ちょう さしゅうしょくとお
日落ちて長沙秋色遠し

し いず ところ しょうくん とむろ
知らず何れの処にか湘君を弔う

qiū yuè chéng hào
秋月 程颢

qīng xī liú guò bì shān tóu
清溪流过碧山头

kōng shuǐ chéng xiān yí sè qiū
空水澄鲜一色秋

gé duàn hóng chén sān shí lǐ
隔断红尘三十里

bái yún huáng yè gòng yōu yōu
白云黄叶共悠悠

せいけいなが す へきざん ほとり
清溪流れ過ぐ碧山の頭

くわすいちょうせんいっしきあき
空水澄鮮一色秋なり

こうじん かくだん さんじゅうり
紅塵を隔断す三十里

はくわんこうよう ゆうゆう
白雲黄葉とともに悠悠

qiūyè jì qū èrshí èryuán wài
秋夜寄邱二十二员外

wéi yīng wù
韦应物

huái jūn shǔ qiū yè
怀君属秋夜

sàn bù yǒng liáng tiān
散步咏凉天

shān kōng sōng zǐ luò
山空松子落

yōu rén yīng wèi mián
幽人应未眠

きみ おもう しゅうや ぞく
君を思うは秋夜に属し

さんぽ りょうてん えい
散歩して凉天に詠ず

やまむな しゅうし お
山空しうして松子落つ

ゆうじんまさ いま わむ
幽人応に未だ眠らざるべし

bān jié yú wáng wéi
班婕妤 王维

guài lái zhuāng gé bì
怪来妆阁闭

cháo xià bù xiāng yíng
朝下不相迎

zǒng xiàng chūn yuán lǐ
总向春园里

huā jiān xiào yǔ shēng
花间笑语声

あや また しゅうかくと
怪しみ来る妆閣閉じ

ちようか くだ あいむか
朝より下るも相迎えざるを

す しゅんえん うち むか
総べて春園の裏に向う

か かんしょうご こえ
花間笑语の声

yǒng shǐ gāo shì
咏史 高适

shàng yǒu tí páo zèng
尚有绨袍赠

yīng lián fàn shū hán
应怜范叔寒

bù zhī tiān xià shì
不知天下士

yóu zuò bù yī kàn
犹作布衣看

なお ほう ぞうあ
尚お てい袍の贈有り

まさにはんしゆく かん あわ
まさに范叔の寒を憐れむなるべし

てんか し し
天下の士たるを知らず

な ふい かん
猶お布衣の看をなす

xún yīn zhě bú yù jiǎ dǎo
寻隐者不遇 贾岛

sōng xià wèn tóng zǐ
松下问童子

yán shī cǎi yào qù
言师采药去

zhǐ zài cǐ shān zhōng
只在此山中

yún shēn bù zhī chù
云深不知处

しょうかどうじ と
松下童子に問えば

い くすり と さ
言う師は薬を採りに去ると

ただこ さんちゆう
只此の山中にあらんも

くもふか ところ し
雲深くして処を知らず

shǔ dào hòu qī zhāng yuè
蜀道后期 张说

kè xīn zhēng rì yuè
客心 争日月

lái wǎng yù qī chéng
来往 预期 程

qiū fēng bù xiāng dài
秋 风 不 相 待

xiān zhì luò yáng chéng
先 至 洛 阳 城

かくしん にちげつ
客心 日月と争い
らいおう あらかじ てい き
来往 預め 程を期す

しゅうふう あい ま
秋 風 相 待たず
ま いた らくようじょう
先ず至る 洛陽城

nán lóu wàng lú zhuàn
南楼望 庐 僮

qù guó sān bā yuǎn
去 国 三 巴 远

dēng lóu wàn lǐ chūn
登 楼 万 里 春

shāng xīnjiāngshàngkè
伤 心 江 上 客

bú shì gù xiāng rén
不 是 故 乡 人

くに き さん ばとお
国を去りて三巴遠く
ろう のぼ ばんりはる
楼に登れば万里春なり

こころ いた こうじょう きゃく
心を傷ましむ江上の客
こ こきょう ひと
是れ故郷の人ならず

shào nián xíng cuī guó fǔ
少年行 崔国辅

yí què shān hú biān
遗却 珊瑚 鞭

bái mǎ jiāo bù xíng
白马 骄 不 行

zhāng tái zhé yáng liǔ
章 台 折 杨 柳

chūn rì lù páng qíng
春 日 路 旁 情

い きゃく さん ご むち
遺却す珊瑚の鞭
はくばおご い
白马驕りて行かず

しょうたいようりゅう お
章台楊柳を折る
しゅんじつ ろ ぼう じょう
春日路傍の情

bié dòng dà gāo shì
别董大 高适

shí lǐ huáng yún bái rì xūn
十 里 黄 云 白 日 曛

běi fēng chuī yàn xuě fēnfēn
北 风 吹 雁 雪 纷纷

mò chóu qián lù wú zhī jǐ
莫 愁 前 路 无 知 己

tiānxià shéirén bù shí jūn
天 下 谁 人 不 识 君

じゅうり こううんはくじつくん
十里の黄雲白日曛じ

ほくふうかり ふ ゆきふんぶん
北風雁を吹いて雪紛々たり

うれう なか ぜんろち き な
愁うる莫れ 前路知己無きを
てんかだれひと きみ し
天下誰人か君を識らざらん

yèshàngshòuxiángchéngwéndí lìyì
夜上受降城闻笛 李益

huílèfēngqiánshāsìxuě
回乐峰前沙似雪

shòuxiángchéngwàiyuèrúshuāng
受降城外月如霜

bùzhīhéchùchuīlúguǎn
不知何处吹芦管

yíyèzhēng rén jìn wàng xiāng
一夜征人尽望乡

かいらくほうぜん すな ゆき に
回乐峰前 沙 雪に似たり

じゅこう じょうがい つき しも ごと
受降 城外 月 霜の如し

し いず ところ ろかん ふ
知らず何れの 処か蘆管を吹く

いちや せいじんことごとくきょう のぞ
一夜 征人尽く郷を望む

sài shàng wén chuī dí gāoshì
塞上闻吹笛 高适

xuě jìng hú tiān mù mǎ huán
雪净胡天牧马还

yuè míng qiāng dí xū lóu jiān
月明羌笛戍楼间

jiè wèn méi huā hé chù luò
借问梅花何处落

fēng chuī yí yè mǎn guān shān
风吹一夜满关山

ゆきぎよ こてん うま ぼく かえ
雪净く 胡天 馬を牧して還れば

つき あき きょうてき じゅうろう かん
月は明らかに羌笛 戍楼の間

しゃもん ばいか お
借問す 梅花いづくよりか落つる

かぜ ふ いちや かんざん み
風吹いて一夜関山に満つ

yè yǔ jì běi lǐ shāng yīn
夜雨寄北 李商隐

jūn wèn guī qī wèi yǒu qī
君问归期未有期

bā shān yè yǔ zhǎng qiū chí
巴山夜雨涨秋池

hé dāng gòng jiǎn xī chuāng zhú
何当共剪西窗烛

què huà bā shān yè yǔ shí
却话巴山夜雨时

きみ きき と いま きあ
君は帰期を問うも未だ期有らず

はざん やう しゅうち みなぎ
巴山の夜雨 秋池に漲る

まさ とも せいそう しょく き
いつか当に共に西窓の燭を剪り

かえ はざん やう とき はな
却って巴山 夜雨の時を話すべき

hán shí hán hóng
寒食 韩翃

chūn chéng wú chù bù fēi huā
春城无处不飞花

hán shí dōng fēng yù liǔ xiá
寒食东风御柳斜

rì mù hàn gōng chuán là zhú
日暮汉宫传蜡烛

qīng yān sàn rù wǔ hóu jiā
轻烟散入五侯家

しゅんじょう ところ ひか な
春城 処として飛花ならざるは無し

かんしょくとうふう ぎょりゅうなな
寒食東風 御柳斜めなり

ひく かんぎゅう ろうそく つた
日暮れて漢宮より蠟燭を伝え

けいえんさん ごこう いえ い
軽煙散じて五侯の家に入る